



新富士ロータリークラブ会報

CREATE HOPE in the WORLD

— 世界に希望を生み出そう —

R I 会長 ゴードン・マッキー
第2620地区ガバナー 中村 皇 積
新富士 R.C. 会長 川村 武
幹事 本多 脩 身

事務所：富士市平垣本町8番1号
例会場：ホテルグランド富士内
TEL(0545)61-0360
例会日時：毎月第2・3・4火曜日
12:30～13:30



第1479回例会 (2024. 2. 13)



司 会 高橋 孝行会場監督
ソング 「奉仕の理想」

四つのテスト唱和・本年度新富士 R C テーマ唱和
R I テーマ唱和

体内に残ったコロナウイルスやヘルペスウイルスが後遺症の引き金になっている可能性を示しているそうです。年齢的には41～61歳の年代の割合が高く、基礎疾患のない人でも後遺症になることが分かっています。

会長挨拶

コロナ感染症、後遺症について

新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから4年が過ぎ、5年目を迎えています。

最近、感染後の後遺症に悩まされる方は多く、課題となっています。どんな症状があるかという、喋ると咳き込んだり、息切れしたり、怠かったり、何となく体調不良、疲労感や呼吸困難、集中力低下、睡眠障害や記憶障害の他、味覚、嗅覚の障害といったものです。

時間の経過とともに大半は改善しますが、診断、治療については確立したものはなく、対症療法が中心です。

WHO（世界保健機関）は、「症状が少なくとも2ヶ月以上続き、他の病気の症状として説明がつかないもので、通常は発症から3ヶ月経過した時点にもみられる」と定義しています。

後遺症の原因として、アメリカ イェール大学 岩崎明子教授らの研究チームが、昨年9月免疫機能に係る物質に変化が生じたといった論文を発表しました。また、後遺症が1年以上続いている人の血液成分解析でストレスがかかる時に増えるコルチゾールの量が半減していることが判明しました。

コルチゾールが減ると低血糖、低血圧になり、集中力低下や疲労感、倦怠感に繋がることが知られています。コルチゾールの減少が一部の症状の一因となり、



幹事報告

①御殿場 R C ガバナー補佐より、I Mのお知らせ

- ・日時：2024. 3. 30(土) 12:45～受付
- ・会場：御殿場高原ホテル

②新旧会長幹事会のお知らせ

- ・日時：4/20(土) 10:30～
- ・場所：米山梅吉記念館

③富士山吉原 R C より、5クラブ親睦ボウリング大会の案内

- ・日時：2024. 4. 11(木) 18:40 集合
- ・会場：ラウンドワン富士店
- ・会費：クラブ参加費 10,000円
ゲーム参加費 3,000円

※ミーティングルームでの飲食が出来なくなったため、各自食事を済ませてくるようお願いします

④週報受信回覧 富士 R C 富士山吉原 R C

出席報告

例会回数	計算会員数	出席者数	欠席者数	MU	出席率
第1479回	16	11	5		暫定68.75%

《本日の欠席者》

堀井 健治君 潮来 克士君 木村 憲司君
久保田元久君 斉藤 寛明君



プログラム予定

2月27日(火) 卓話
(富士 R C 会長)

3月12日(火) クラブフォーラム
(施設訪問について)

私のスマイル

長原 良成君 ドキュメンタリー映画「みんなの学校」をロゼシアターに見に行ってきました。学校の在り方を考えさせられました。

川村 武君 真白い富士山、今日は晴天で暖かく、外気温16度。気持ちいいです！

和田 三郎君 早咲きの河津桜、満開とのことです。今年の花見会はいつになるのでしょうか。

本多 脩身君 今日もうありがとうございます。暑い一日になります。

渡邊 哲男君 本日もお世話になります。

鈴木 清久君 渡邊さんの説明、お願いします。

小山 哲君 日曜日の親睦5クラブ茶会、楽しみです。

渡邊 勝英君 渡邊哲男さん、お茶会の開催、宜しくお願いします。

森 美城君 5年ぶりの大学の同窓会を楽しんでしました。



幹事報告
本多脩身幹事



出席報告
渡邊勝英出席委員



スマイル報告
長原良成親睦委員

クラブフォーラム

5 R C 親睦大茶会について



茶道ってなあに？

「茶道」ということばを知っていますか？

お茶碗を回したり、おじぎをしたりして、抹茶を飲む「お茶」なら聞いたことがあるでしょうか。

茶道は、500年以上も前からあって、ずっと続いている日本の文化です。茶道の基本は、「誰かと楽しくお茶を飲む」ということです。

一緒に楽しむということは、一緒に同じことをして、同じことに感動したり、おどろいたり、ほほえみ合ったりすることです。

誰かと一緒に楽しむ時間をつくる「茶道」には、人と人とを近づける力があります。

一緒にいる人を大事にする、思いやる心が芽生えれば、自分のことも大切にし、相手からも大切にされる。

茶道にはそんな良いことがあるから、大人も子どもも海外の人たちも学び何百年も続いて、いま、私たちの身近なところにあるのです。

新富士 R C ホスト
渡邊 宗哲 宗匠
(渡邊哲男会員)



お茶の歴史

お茶を飲む風習が初めて日本に伝えられたのは奈良時代（約1300年前）。最澄や空海というお坊さんが仏教の勉強をしに中国へ渡り、帰る時にお茶のタネを持ち帰ったのが最初だと言われています。

その後、鎌倉時代（約800年前）に栄西というお坊さんがやはり中国からお茶のタネを持ち帰り、明恵というお坊さんに贈り、そのタネからたくさんのお茶の木を育てて、京都の宇治や、静岡の清見（興津）など、日本全国に広まっていきました。



栄西は、1211年に日本最古の茶書「喫茶 養生記」で、お茶の育て方や、薬としてのお茶の効能を書きました。

これは、お茶文化の発展に大きく役立ちました。